

## 平成25年度長門市社会福祉協議会事業報告書

長門市地域福祉計画と一体的に策定した第二次地域福祉活動計画の2年次にあたる平成25年度は、基本理念である『みんなが主役、誰もが住みつけてみたいまちづくり』の実現に向け、役員・事務局・事業所・施設が一体となり、地域住民や関係団体との協働のもと、地域の特色を生かしながら地域福祉を推進する中核的な団体として、福祉を中心とするまちづくりを目指し諸事業を実施しました。

特に社協の使命である住民主体による地域福祉推進の施策として、自治会による見守りや助け合いの活動を奨励する目的から、自治会福祉部結成に係る支援事業を実施し、地区社協からの間接的支援も含め市内91自治会（小地域も含む）で話し合いが持たれました。

次に新規事業として、市民からご寄付頂いた土地に年度内の竣工を目指した障害者等の包括支援の拠点『福祉の里』は、永小作件の解除に時間を要し、当初計画に対して約6ヶ月の遅延となり、平成26年10月からの供用開始を目指して現在建設中です。

また、在宅高齢者に対する支援として、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できることを目指した本会初の在宅介護施設「小規模多機能ホームひだまり長門」については昨年度の大幅赤字を改善し、年度途中より単月黒字化となりました。

「誰もが住み慣れた地域で、豊かに安心して暮らせるまちづくり」を目指して、自治会福祉部活動を基盤とする地域福祉活動部門、介護保険法や障害者総合支援法に関連する公的制度として実施する在宅福祉サービス部門、共助の活動として市民ボランティアの参加による住民参加型のサービス部門に加えて、本会専門職群による各種の福祉サービス利用支援部門について以下、部門別に分類し、事業の概要をお知らせします。

### ★法人運営部門

#### ※理事会 (監事含む)

開催年月日	出席者数(人)	主要議題及び協議、報告事項
平成25年5月28日	13	定款の変更について、次期評議員の専任について、平成24年度事業報告について、平成24年度会計決算について
平成25年8月1日	14	正副会長、湯の家担当理事の互選について、役員の専門部会への所属について
平成25年11月25日	15	長門市敬老会事業の実施について、福祉の里整備についての中間報告
平成26年1月14日	15	福祉の里整備事業入札に伴う契約の承認について、生活困窮者自立促進支援モデル事業の実施について
平成26年3月31日	12	定款変更について、平成25年度補正予算、平成26年度事業計画・資金収支予算について、社協基盤強化事業に関する覚書の締結について

8月1日が理事の改選期にあたり従来は地区選出中心の人選から、多様な団体や機関からの参加と女性の構成割合を高めることを柱に選任いたしました。新たに就任した理事は出席率も高く、積極的な意見交換が行われています。また会長、副会長、担当理事、常務理事と各班長、湯の家施設長等を加えた「役員会議」を毎月開催し、報告等を実施しています。

#### ※評議員会 (監事含む)

開催年月日	出席者数(人)	主要議題及び協議、報告事項
平成25年5月28日	17	定款の変更について、欠員理事後任者の専任について、平成24年度事業報告について、平成24年度会計決算について
平成25年7月4日	20	理事及び監事の専任について
平成26年3月31日	20	定款変更について、平成25年度補正予算、平成26年度事業計画・資金収支予算について

7月1日の評議員改選に伴い、従来は理事の選出母体であった7ブロックの地区社協代表者に就任いただきました。

#### ※専門部会（生活困窮者）

開催年月日	出席者数(人)	内 容 説 明
平成25年10月16日	7	社協における個別支援の必要性と現状について、生活困窮者の増加に伴う国の動向、生活困窮者自立支援法について
平成25年12月4日	6	生活困窮者自立支援法及び同モデル事業の動向について、ケース検討会
平成26年2月5日	7	生活困窮者自立支援法及び同モデル事業の動向について（新たに示された厚労省資料等について）

#### ※（地域福祉）

開催年月日	出席者数(人)	内 容 説 明
平成25年10月16日	7	地域福祉活動計画について、（第1次計画、第2次計画）、計画に沿った地域福祉推進状況
平成25年12月4日	6	地域福祉推進組織結成状況について、市社協からの支援状況について
平成26年2月5日	6	助成金による経済的支援の今後の方向性について、（地区社協、自治会福祉部、ふれあいいいきサロン）

#### ※（児童養護施設検討）

開催年月日	出席者数(人)	内 容 説 明
平成25年10月7日	6	俵山湯の家の現状と今後のあり方について
平成25年12月2日	6	俵山湯の家の今後のあり方と施設小規模化に向けた取り組みについて
平成26年3月3日	6	俵山湯の家の今後のあり方についての提言案の検討

昨年度組織した専門部会は一旦解散し、本年度は新たなテーマも含めて役員が見識の向上と意見交換を図る意味合いで開催しました。①生活困窮者対策部会9名、②地域福祉推進部会7名、③児童養護施設部会6名（重複あり）が各3回ずつ開催し活発な意見交換が行われました。

#### ※一般会費収入

※特別会費収入 (単位：円)

	三隅地区	長門地区				日置地区	油谷地区	計		金額
		通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区					
世帯数(戸)	2,064	606	2,002	5,727	455	1,523	2,813	15,190	団体	43,000
納入額(円)	515,400	166,500	435,900	1,352,000	120,000	435,600	708,600	3,734,000	個人	53,000
納入率	83.24%	91.58%	72.58%	78.69%	87.91%	95.34%	83.97%	81.94%	合計額	96,000

会費は会員規程により一般会費（1口300円）、特別会費（1口1,000円、団体金額は3口以上、個人は1口以上）と定められています。県内の他社協における一般会費額は一口100円～1,000円ですが本会の会費額は比較的低い部類に属しており、人口1人あたりの納入実績額でも県内平均の約152円（近隣市のH市154.9円、M市332.8円）に対し100.5円となっています。本年1月、5月発行の広報誌「しあわせ長門」でもお知らせしたとおり、人件費を除く法人運営経費が毎年600～800万円程度不足しており、この問題について一昨年度、会長諮問機関である専門部会でも審議されましたが、現状において値上げのお願いは困難との考えから、当面は一般会費は現行の300円を維持しつつ、特別会員加入拡充をお願いしたところ、昨年度比大幅アップの96口の納入をいただきました。今後も市民の方や関係機関団体に対し、粘り強くお願いしていきたいと考えております。

### ※寄付金収入

(単位：円)

	法人	三隅地区	長門地区				日置地区	油谷地区	計
			通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区			
平成17年度	-	2,528,973	10,171,311				2,343,681	3,360,600	18,404,565
平成20年度	336,037	2,291,113	9,497,672				3,011,701	3,569,438	18,705,961
平成23年度	348,976	2,438,000	572,000	2,521,500	4,861,592	915,000	1,815,713	3,860,250	17,333,031
平成24年度	382,686	1,808,602	800,000	1,468,470	4,549,147	438,000	1,955,200	3,333,886	14,735,991
平成25年度	280,390	1,680,500	743,000	2,588,000	5,040,175	755,365	1,349,000	4,133,527	16,569,957

### (区域別寄付金納入状況内訳)

地区名	香典返し		見舞い返し		一般寄付、その他		合計	
	件数	寄付合計額	件数	寄付合計額	件数	寄付合計額	件数	寄付合計額
法人	2	50,000	-	-	25	230,390	27	280,390
三隅	74	1,536,000	10	108,000	3	36,500	87	1,680,500
通	14	740,000	-	-	1	3,000	15	743,000
仙崎	73	2,585,000	-	-	1	3,000	74	2,588,000
深川	159	4,936,755	-	-	13	103,420	172	5,040,175
俵山	24	750,000	-	-	2	5,365	26	755,365
日置	51	1,225,000	7	95,000	5	29,000	63	1,349,000
油谷	110	3,831,285	29	249,000	9	53,242	148	4,133,527
合計	507	15,654,040	46	452,000	59	463,917	612	16,569,957

本会にとって貴重な福祉活動財源である寄付金収入には、香典返し・見舞い返し・一般寄付、その他とありますが香典返しが件数・金額とも多くを占めています。本年度は市民の皆様へ、広報紙等で本会の法人運営部門が人件費を除いても大幅な赤字である事をお知らせした事も影響してか、寄付金総額は若干持ち直しました。但し市内の年間死亡者数に対して香典返しを頂いた割合は71%となっており、昨年度の74%と比較して若干低下しました。この数字は合併以降は近年約70%から80%の間で推移しているなかで、特に減少しているとは言えず、県下の社協のなかでも高い比率を維持しています。今後も本会の理念や活動をしっかりPRして、市民の方が「社協に寄付したい」「社協に託したい」と思っただけできるよう、役職員一丸となって努力することが必要です。

また、返礼はがきの無料印刷については平成23年1月から実施し、多くの寄付者からご好評をいただいております。今後も継続したいと考えています。

### ※市補助金収入

(単位：円)

年度	人件費	補助金	割合(%)
平成17年度	61,826,319	48,974,835	79.2%
平成20年度	56,426,637	32,149,000	57.0%
平成23年度	58,307,787	40,000,000	68.6%
平成24年度	58,177,089	40,000,000	68.8%
平成25年度	57,313,866	40,000,000	69.8%

市補助金収入は、社協運営費補助として介護保険従事者と委託事業従事者を除く社協職員の人件費補助です。合併前は100%の補助率であったものが現在は7割弱の4,000万円が補助金として交付されており、平成25年度は1,700万円強の不足額を介護保険収益等から繰り入れています。県内の他社協においては法人運営に係る人件費補助100%が基準となっています。

### ※基金・その他積立預金(抜粋)

(単位：円)

年度	VO基金積立金	福祉基金積立金	人件費積立金	備品等購入積立金	財政調整積立金	運営資金積立金等	計
平成17年度	67,174,377	2,710,087	26,277,000	7,795,636	27,503,810	14,921,622	146,382,532
平成20年度	67,174,377	1,380,087	15,477,000	7,795,636	27,500,000	6,853,954	126,181,054
	VO活動支援積立金	福祉の里積立金	人件費積立金	備品等購入積立金	財政調整基金積立金	介護保険事業運営積立金	
平成23年度	17,200,000	50,000,000	0	0	34,800,000	0	102,000,000
平成24年度	17,200,000	50,000,000	0	0	34,800,000	0	102,000,000
平成25年度	17,200,000	0	0	0	34,800,000	12,580,000	64,580,000

平成23年度第4回理事会の決定を受け、50,000千円を積み立てた福祉の里整備資金は建設費支払のために流動資産となる預金に組み換えしました。また、介護保険事業所の運用資金40,000千円を一時的に(6ヶ月間)に定期預金として運用したほか、その他の積立金と合算で328,705円の運用益を得ました。更に、介護保険事業所の安定的な運営を図る目的から12,580(千円)を新たに積み立てました。

## ※社会福祉大会

従来より根本的なあり方について問題点が指摘されていた社会福祉大会については昨年度、会長諮問機関である専門部会において5回に亘り審議が行われ、従来の表彰と講演という形式を改め、地域で福祉活動を実践されている方々を表彰できるように表彰規程の改正、またサロンやボランティア等の福祉活動の発表や学習の場となるような仕組みづくり、更には福祉団体やグループによる出店など、住民参加型の福祉まつり的なイベントを目指すことが示され、本年度も開催を見送りました。

## ※赤い羽根共同募金

### ★共同募金年度別募金実績

(単位：円)

年 度	長門支会合計額	うちA配分充当額
平成17年度	13,921,300	3,390,000
平成20年度	13,276,298	3,080,000
平成23年度	9,879,006	2,980,000
平成24年度	9,612,488	2,720,000
平成25年度	9,511,045	2,740,000

### 25年度種別実績内訳

募金種別	金額(単位：円)	割合(%)
戸別募金	7,820,550	82.23%
法人募金	887,638	9.33%
職域募金	230,232	2.42%
学校募金	138,075	1.45%
街頭募金	23,226	0.24%
イベント募金	140,043	1.47%
その他	271,281	2.85%
合 計	9,511,045	100.00%

山口県共同募金会で平成24年度より取り組んでいる「募金百貨店プロジェクト」に6つの企業からの協力があり、法人募金は対昨年比7.6%の増額となりました。しかし、職域募金、学校、イベント募金が少し落ち込んだため全体の募金実績は対昨年比1.05%の減額となりました。

### ★共同募金配分実績(平成24年度募金実績による事業実績) ※共同募金経理区分間繰出・繰入後の金額。資金収支計算書の経常支出額と一部合致しない。

25年度実績	市社協合計額	主な事業内容
老人福祉	1,788,000	ふれあいベンチ設置事業、黄色い杖配付事業、高齢者パソコン教室開催事業、団体等助成(老人クラブ、ふれあいサロン、認知症家族会)
障害者(児)福祉	307,000	団体等助成(手をつなぐ親の会、ブルースター(発達障害を考える会)、視覚障害者福祉協会)
児童青少年福祉	110,225	チャイルドシート貸出し事業、福祉教育出前講座事業、団体等助成(ことばの教室親の会)
母子福祉	40,000	団体等助成(母子寡婦福祉会)
福祉育成援助	4,578,652	小地域福祉活動推進組織 育成支援事業、地区コーディネーター設置事業、フリースペース設置事業、引きこもり支援事業、広報作成費、団体等助成(地区社協)
ボランティア援助	68,611	ボランティア活動推進事業(ボランティア保険加入)
歳末たすけあい	-	該当する事業なし
合 計	6,892,488	※ = 9,612,488(支会合計額) - 2,720,000(A配分充当額)

## ※広報啓発活動

### 広報紙発行

	事務局	みすみ地区社協	通地区社協	仙崎地区社協	深川地区社協	俵山地区社協	日置地区社協	ゆや地区社協
回 数	6	2	0	0	2	0	3	1
経 費(円)	1,196,790	118,650	0	0	186,000	0	150,000	65,520

市社協として『しあわせながと』を年6回発行しています。一部市民の方からの寄稿もいただいておりますが、殆どを職員が企画・作成しているのが実情です。少しでも市民参加による誌面づくりができるよう、本年度はカメラマンボランティア養成研修も実施しました。

### ホームページアクセス件数(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

アクセス場所	件 数	前年対比
長門市内から	1,601	▲ 697
長門市を除く日本国内から	5,327	▲ 1,288
外国から	33	▲ 7
合 計	6,961	▲ 1,992

ホームページ運営についてはタイムリーな情報発信と経費の削減を図るため現在、職員で行なっています。市民の方からのアクセス件数は昨年度より697件減少しており、その要因としては年度途中から開始したフェイスブックへの移行が考えられます。しかし、アクセスの詳細を分析してみると2回目以降の利用、いわゆるリピーターが約半数にとどまっており、せっかくアクセスしていただいた利用者の期待に応えられていないと考えられます。今後は再度ページ構成やアップロードの頻度を増加させるなどして、内容を充実する必要があると反省しています。

## ふれあいベンチ設置状況

(平成26年3月31日現在)

	三隅地区	通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区	日置地区	油谷地区	合 計
H25新設台数	0	0	0	1	1	0	0	2
H25交換台数	1	0	0	1	0	0	0	2
設置台数	41	6	4	30	4	26	27	138

平成20年度に改定した規程に基づき、基本的に自治会からの申請により設置しました。設置した後は、地域の財産として地元自治会が責任を持って維持管理を行うようお願いしています。設置するベンチは、平成22年度より耐久性の優れたスチール・プラスチック製のものを導入しています。

新たに深川地区と俵山地区に1ヶ所設置し、老朽化に伴う交換を深川地区と三隅地区で1ヶ所行いました。

### ※各種資金貸付

	資金内訳	相談件数	貸付件数	貸付金額(円)
法外援護資金	法外援護資金	2	0	0
	(緊急小口)	16	16	310,000
	合計	18	16	310,000

市社協独自である「法外援護資金」貸付事業は、5,254千円を原資とし低所得者世帯を対象に貸付を行っています。過去の滞納分については、対象世帯へ職員が頻りに訪問するなど回収に努めました。新規貸付については、引き続き上限2万円の緊急小口資金として対応しました。また、生活困窮者の自立に向けた支援にも対応できるよう規程を見直すなど検討しています。

	資金内訳	相談件数	貸付件数	貸付金額(円)
生活福祉資金	総合支援資金	5	1	97,400
	福祉資金	16	0	0
	緊急小口資金	3	1	80,000
	教育支援資金	1	0	118,000
	不動産担保型生活資金	0	0	0
合計		25	2	295,400

失業者の相談件数は前年度より減少していますが、母子世帯・高齢者の生活費の相談件数が増加しており山口県健康福祉センター、市保護係との連携が益々重要になっています。

### ★地域福祉活動部門

#### ◎地域福祉活動の推進

事業名	三隅地区	長門地区				日置地区	油谷地区
		通	仙崎	深川	俵山		
①地区社協活動推進事業	役員会5回 正・副会長、事業部長会議5回	総会1回	理事会1回 評議員会1回	理事会6回 評議員会2回	総会1回	総会1回 役員会5回	役員会5回
②友愛訪問活動推進事業	70歳以上独居・75歳以上ふたり暮らし高齢者等対象	65歳以上独居・75歳以上ふたり暮らし高齢者等対象				70歳以上独居高齢者対象	80歳以上高齢者対象
③福祉員活動推進事業	福祉員集会、研修会での啓発						
④福祉の輪づくり運動研修事業	福祉員集会3回	輪づくり委員会全体会議6回 小地域会議6回	福祉員研修1回	福祉の輪づくり研修会2回		福祉員集会2回	福祉員集会1回 福祉の輪づくり研修会1回
⑤小地域福祉活動推進事業	自治会福祉部活動	小地域活動配食サービス4回 ふれあいまつり	自治会福祉部活動配食サービス1回	災害時要援護者見守りネットワーク推進事業	自治会福祉部活動 黄色い旗運動	自治会福祉部活動	12地区福祉推進委員会の諸活動 ふれあい福祉まつり
⑥小地域福祉活動推進組織設置	14	4	5	21	4	31	12

平成24年3月に行政計画と一体的に策定した第2次「長門市地域福祉活動計画」に沿って諸活動を実施してきました。特に、市内7つのエリア全てに設置された地域福祉推進組織である地区社協との連携を深めながら、地域福祉の推進に積極的に取り組んで参りました。また、地区社協の財政基盤を強化するため、引き続き市社協の一般会費、香典返し等の寄付金、共同募金配分金から活動費を助成し、地区社協がより主体性を持った活動ができるよう支援しました。

次に、概ね100世帯の単独の自治会または複数の自治会からなる「小地域福祉活動推進組織」については、名称を親しみやすい「自治会福祉部」に変更し、同時に組織に配置する「福祉活動推進員」についても馴染みのある「福祉員」に名称変更し設置拡大を図りました。平成25年度の設置数は昨年度より4多い55で、市内全域の60.2%で組織化され、地域の福祉・生活課題について話し合う場が設けられ、住民の地域福祉に対する意識の高揚につながりました。

昨年度から新たに取り組んでいる認知症のご本人とその家族介護者の身体的・精神的な支援を目的としたネットワークづくりについては、湯本と油谷の温泉施設において、現在の在宅介護者に加え、認知症家族介護経験者、認知症を支える会「ゆやつつじの会」の会員合同でリフレッシュを兼ねた交流会を開催しました。今後は今回の参加者の皆さんからいただいた意見等を参考にし、今後、行政や関係機関とも連携しながら、市内全域及び地域で認知症を支える体制づくりを構築していきます。

### ★在宅福祉サービス部門

住み慣れた地域で、高齢者や障害者がいきいきと暮らししていくために各種事業を展開しました。

新規事業への取り組みとして住民ニーズをふまえ、社協の理念である「住み慣れた地域でいつまでも暮らしつづけることが出来る」を目標に、小規模多機能ホームひだまり長門を平成24年3月26日より開設しました。

また、平成24年度の介護報酬の改定に伴い各事業所においては、一時的に減収となりましたが今年度は持ち直しております。また、長期的に安定して運営していくためには、車両の更新や施設の改修、人件費や施設整備の確保等のため平成25年度より計画的に積み立てております。

### ①居宅介護支援事業

(単位：千円)

年 度	長門事業所（17年度～20年度は長門+日置合算）				油谷事業所				居宅介護支援事業所合算	
	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	10,955	11,383	▲ 428	1,818	8,390	6,367	2,023	5,146	1,595	6,964
平成20年度	9,235	11,241	▲ 2,006	-	8,097	9,048	▲ 951	2,414	▲ 2,957	2,414
平成23年度	9,858	8,378	1,480	2,666	13,799	11,081	2,718	9,928	4,198	12,594
平成24年度	9,806	7,795	2,011	4,677	12,629	9,063	3,566	12,761	5,577	17,438
平成25年度	8,584	8,386	198	3,875	14,540	11,143	3,397	15,058	3,595	18,933

長門事業所については20年度途中で行なった事業所統合や平成23年度より正職員から常勤嘱託職員への職員体制の見直しにより赤字体質に歯止めがかかり22年度より黒字に転じましたが、今年度については、利用者の入院や施設入所等が重なり減収となり、また、積立のため単年度では赤字を計上しています。

平成24年度からは事業所をウェブ内の地域生活支援センターに移し、土日にも対応できるよう相談しやすい体制をとっています。

油谷事業所については大幅に収入が伸びましたが、常勤嘱託職員への退職により正職員の配置などのため支出も増えています。同地域においては過疎特別加算地域であることから、安定した経営は可能と考えられます。

一般的に経営が厳しいといわれる居宅介護支援事業所ですが、採算性第一主義でなく利用者の立場に立った適切なサービス計画と生活相談・支援提供に引き続き努力して参ります。

※ 居宅介護支援事業所では、車両の更新、備品、人件費・施設整備の積立等で平成25年度において、長門事業所100万円、油谷事業所110万円の積立を実施しています。

### ②訪問介護事業

(単位：千円)

年 度	長門事業所（平成20年度までは三隅、日置事業所合算）				油谷事業所				訪問介護事業所合算	
	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	31,932	26,748	5,184	15,375	32,247	30,525	1,722	8,087	6,906	23,462
平成20年度	33,799	29,853	3,946	2,535	36,607	31,774	4,833	18,378	8,779	20,913
平成23年度	56,294	40,942	15,352	14,335	51,527	33,773	17,754	24,946	33,106	39,281
平成24年度	51,480	42,036	9,444	16,649	39,849	27,680	12,169	30,743	21,613	47,392
平成25年度	49,782	42,844	6,938	18,586	42,231	30,613	11,618	31,657	18,556	50,243

長門事業所については事業所統合により、市内中心部に事業所を構えた結果、新たなニーズをキャッチし、利用者数も毎月110名前後で推移しており現在も利用者が増加しつつあります。活動時間については平成24年度3月1,392時間から平成25年度末3月は1,269時間と若干減少していますが、経営安定のため利用者の掘り起しに努めています。

油谷事業所についても利用者、活動時間も若干は増加してましたが、両事業所とも職員一丸となり努力した結果、好調な業績をあげることができました。

今後とも、職員の配置転換や常勤嘱託職員を正職員に登用するなど利用者の皆さんに信頼してご利用していただけるよう、職員の資質やサービスの質の向上に努めて参ります。

※ 訪問介護事業所では、車両の更新、備品、人件費・施設整備等を考え、今年度長門事業所300万円、油谷営業所170万円を積み立てました。

### ③訪問入浴事業

(単位：千円)

年 度	長門事業所				油谷事業所				訪問入浴介護事業所合算	
	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	3,848	3,815	33	3,174	3,610	2,288	1,322	665	1,355	3,839
平成20年度	3,219	4,532	▲ 1,313	-	1,138	1,191	▲ 53	1,080	▲ 1,366	1,080
平成23年度	4,591	4,585	6	-	1,903	1,093	810	2,332	816	2,332
平成24年度	6,179	5,210	969	969	1,143	1,166	▲ 23	2,309	946	3,278
平成25年度	7,219	6,031	1,188	1,657	1,373	1,021	352	2,160	1,540	3,817

訪問入浴事業は社会福祉事業の中でも公益事業のひとつに掲げられており、公的な社会福祉法人である本会にとっては例え赤字となっても継続して実施

していくべき事業のひとつと考えていますが、効率的な運営による収支の改善は長年の課題と言えます。長門事業所については実利用者数13名、年間のべ利用回数については511回に増加し、加えて身障訪問入浴の増加やサービス提供手順等の見直し等の事業の効率的運営に努めた結果、赤字体質解消が図れつつあります。油谷事業所については実利用者数4名（3月末3名）で、年間利用回数も108回と厳しい状況です。今後の見通しとしては、当市における施設入所待機者も増加傾向にあることから、利用者は序々に増加すると見込んでいますが、油谷事業所の入浴車の老朽化等の問題も抱えており、事業所の一本化について検討が必要となっています。

※ 訪問入浴介護事業所では、車両の更新、備品、人件費・施設整備等を考え、今年度長門事業所50万円、油谷営業所50万円を積み立てました。

④通所介護事業

(単位：千円)

年 度	長門事業所（一般型）				油谷事業所（小規模型・閉じデイ）				通所介護事業所合算	
	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	事業収入	支出	差額	当期末資金残高	差額計	当期末資金残高
平成17年度	46,098	37,749	8,349	9,385	13,970	14,121	▲ 151	469	8,198	9,854
平成20年度	58,846	47,681	11,165	19,781	29,433	19,628	9,805	23,167	20,970	42,948
平成23年度	62,101	53,405	8,696	16,329	43,437	33,299	10,138	33,548	18,834	49,877
平成24年度	64,175	53,159	11,016	20,415	32,358	28,078	4,280	24,828	15,296	45,243
平成25年度	64,173	51,715	12,458	20,874	36,969	27,730	9,239	28,618	21,697	49,492

通所介護事業については長門事業所は報酬改定にもかかわらず、順調に運営出来ていますが、油谷事業所については認知症デイの廃止やひだまりに利用者が移行したことで大幅な減収となりましたが、3月頃より利用者の確保も出来ており、今後は少しづつ増収が見込まれます。

長門事業所の年間のべ利用者数は6,772人1日平均利用者数22.2人で引き続き定員充足率の向上に努めてまいります。油谷事業所については年間利用者数が3,425人、1日平均利用者数約10.3人となっており、小規模事業所のため月300名上限があるため、開所日数等での調整が必要になっています。

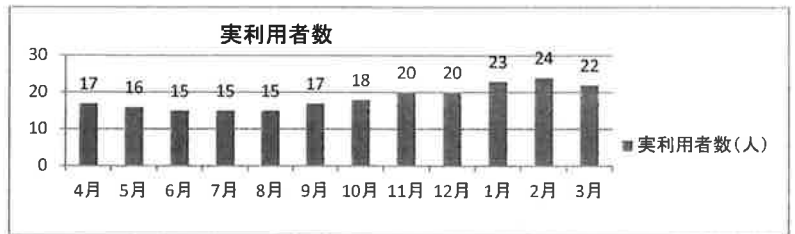
平成24年度については、介護保険制度改正があり収入が落ち込みましたが、収入の安定化を図るため、提供時間区分の変更などで対応しました。

油谷事業所については小規模多機能ホームしあわせ長門が開設したことから、地域密着サービスの認知症対応型通所介護を廃止し、小規模デイで月～土の週6回実施しました。また、非常勤パート職員より嘱託常勤職員への登用を図るなど、職員の資質やサービスの質の向上に努めるための努力を続けております。

※ 通所介護事業所では、車両の更新、備品、人件費・施設整備等で今年度で長門事業所313万円、油谷営業所165万円積立しました。

⑤小規模多機能ホームひだまり長門

年 度	ひだまり長門			
	事業収入	支出	差額	当期末資金残高
平成24年度	28,032	40,698	▲ 12,666	1,364
平成25年度	43,769	45,190	▲ 1,421	1,443



平成24年3月26日より地域密着型サービスの一つである小規模多機能型居宅介護施設を開設しました。前述したとおり当事業については収益が出にくい事業で今年度9月より単月黒字に転じましたが、最終的に150万円を長門デイ事業所より繰入しました。

平成26年1月より登録定員21名より25名に、通い定員を12名より15名に増員し、事業実施しており、平成26年度に於いては黒字への転化が見込まれます。

※ ひだまり長門では、車両の更新、備品、人件費・施設整備の積立等でこの先10年間で14,150,000円の資金が必要で年間150万程度の積立は可能と思われませんが、油谷通所介護事業へ13,000,000円を5年間で償還する予定としていましたが、現状を考えると償還期間の延長が必要と思われる。

⑥閉じこもり予防デイサービス事業利用実績

(単位：人)

年 度	三隅地区	長門地区				日置地区	油谷地区	計
		通地区	仙崎地区	深川地区	俵山地区			
平成17年度	-	963	505	929	592	-	343	3,332
平成20年度	1,093	1,150	594	1,071	657	-	436	5,001
平成23年度	900	/	534	811	/	-	277	2,522
平成24年度	828	/	413	825	/	-	148	2,214
平成25年度	920	/	375	771	/	-	102	2,168
実利用者数 (年度末)	29	/	7	16	/	-	9	61
スタッフ数	2	/	2	2	/	-	5	11
1日平均利用人数	6.1	/	3.8	5.4	/	-	1.4	/
受託経費 (千円)	2,479	/	1,472	2,451	/	-	504	6,906

※本事業は事業費補助方式による市委託事業のため、未収益事業です。但し油谷地区については利用実績による委託費及び利用料が④表の収入額に含まれます。

近年の傾向として利用者数、利用実績額共に減少しています。

⑦障害者や高齢者等を対象とした事業

(単位：千円)

年 度	障害者総合支援法に係る事業		高齢者等対象の事業(抜粋)			その他事業		社用具貸出事業	
	ガイドヘルプ	長門市手話奉仕員派遣・養成	はつらつ外出支援	生活支援相談員派遣(市委託)	高齢者パソコン教室(人数)	フリースペース	福祉バス運行	種類	回数
平成17年度	431	-	394	1,613	-	-	-	車イス	151
平成20年度	425	-	1,433	511	-	-	-	PTイレ	2
平成23年度	309	403	1,675	721	135	444	2,492		
平成24年度	274	336	1,664	240	880	260	2,133	合計	153
平成25年度	266	86	1,492	33	919	348	1,972		

地域生活支援事業であるガイドヘルプ及び移動支援事業は、対象者の方も高齢化しており派遣の依頼も少なくなっています。

高齢者等対象の事業のうち、はつらつ外出支援については利用登録者数は26名で昨年より微増となっていますが、利用者の入院や市内の福祉運送事業者が増車による事業拡大を図られたことも影響してか、利用回数減で事業費も落ちています。また、生活支援相談員派遣事業については、前年度月平均利用回数41.5回から21.6回と半減しており、事業自体の必要性が問われています。福祉用具貸出事業については利用件数は153件で横這いで推移しており、車イスの利用が151件、ポータブルトイレ2件です。いずれの用具も保管場所の確保が課題となっています。

手話奉仕員派遣事業は、手話奉仕員6名で20回の派遣を行いました。長門地区での通訳者・奉仕員の数が少ないため派遣も難しいときも多く、長門市へ連絡し山口県聴覚障害者センターに広域派遣の依頼をすることも多くなっています。(15件)

ひきこもり支援スリースペース事業では平成22年10月より社会的ひきこもりに関する相談や様々な情報、活動場所を提供しています。平成25年度については開所日数98日実利用数7名、述べ111名が利用されました。但し利用者は限定されており、本来の事業の目的を果たしているのか検証が必要です。

福祉バス運行事業では市内の高齢者、障害者、自治会や公共的な福祉団体へ無料でバスを貸し出しています。平成25年度は138件の利用があり、前年対比-15件となりました。主な利用実績の内訳は老人クラブ31回、サロン76回、障害者団体2回、その他の当事者団体・地域福祉推進団体9回、その他20回となっています。

★住民参加型福祉サービス部門(住民参加型福祉サービスの推進)

年 度	サービスまごころ・ファミリーサポートセンター事業						ファミサポ実績		まごころ実績	
	収入(千円)	支出(千円)	差額(千円)	まごころ実利用者数(人)	まごころ実施回数	ファミサポ利用回数	サービス内容	活動回数	サービス内容	活動時間
平成17年度	2,671	4,792	▲ 2,121	88	2,644	-	保育終了後預り	2	掃除・買物・洗濯 (病院含む)	1824.0
平成20年度	2,096	2,951	▲ 855	70	1,695	-	保育施設送迎	-		
平成23年度	3,872	3,824	48	58	1,364	279	デイケア送迎	14	介護サービス	0.0
平成24年度	3,378	3,491	▲ 113	51	964	371	放課後預り	1	草取り	187.5
平成25年度	3,704	3,723	▲ 19	54	1,343	133	その他	116	病院付添 投薬受	287.5
							合計	133	合計	2299.0

サービスまごころについては、昨年度から病院での洗濯の依頼を中止したことにより提供回数が大きく減少しましたが、個人の依頼件数が増えたことにより2年前の水準まで回復しました。しかし、ほとんどの利用・協力・賛助会員が長門地区に集中している状況が続いていることから、旧郡部でのニーズの掘り起し及び協力会員の登録者数を増やすことが今後の大きな課題となっています。そのため、引き続き介護職員初任者研修受講者にも協力会員への登録を呼び掛けるとともに、より一層のPR活動を行っていきます。

ファミリーサポートセンター事業については、ほっちゃTVや各種イベント、児童クラブ等でPRに努めたほか、昨年度より子育て世帯の負担を軽減するため市の独自助成制度により1時間の利用料がワンコイン(500円)となりましたが、残念ながら利用者数の増加にはつながらず、前年比238回の大幅な減少となりました。

(ふれあい・いきいきサロン・ボランティアの推進)

年 度	ふれあい・いきいきサロン		サロン担い手養成 研修参加人数	ボランティア 登録人数
	箇所数	参加人数		
平成17年度	41	825	181	1,630
平成20年度	66	1,243	342	1,361
平成23年度	72	1,496	184	980
平成24年度	69	1,123	158	936
平成25年度	66	1,130	96	548

ふれあい・いきいきサロンについては、新たに日置地区と油谷地区に1箇所設置されましたが、高齢化等により参加者が減り休止したサロンが5箇所あったため、昨年度より3つ減り66箇所となっています。本会としては、今後サロン活動を自治会福祉部活動の一環として位置付け、自治会で主体的に運営し、少しでも長く活動できるよう支援していきたく考えています。

サロン担い手養成研修については、4地区合同で2回開催としたため参加者数は減少しました。ボランティアについては、解散及び退会されたグループが5団体あり、また、実際に活動されている方のみを登録する等見直しを図ったため、登録者数が大幅に減少しました。現在、多くのボランティア団体がメンバーの高齢化や後継者不足の悩みを抱えているため、早急に新しい企画、発想によるボランティアの啓発と人材育成を推進する必要があります。

★福祉サービス利用支援部門(権利擁護事業)

(単位：人)

事業名	長門地区	三隅地区	日置地区	油谷地区	合計
認知症高齢者等	6	3	2	1	12
知的障害者等	6	2	0	2	10
精神障害者等	9	6	0	0	15
その他	0	0	0	1	1
合 計	21	11	2	4	38
(成年後見事業)	法定後見契約	1	任意後見契約(将来型)	0	1
相談件数・内容	成年後見開始申立支援				0
	成年後見に関する相談				8
	成年後見人候補者申立て				0

自分で金銭管理が難しい方に代わって生活費の管理や重要書類の保管、福祉サービス受給などの手続きを行う地域福祉権利擁護事業については、利用者の入所や死亡により年度末利用者数が前年対比7名減の38名となりました。分類すると認知症12名・知的10名・精神15名・その他1名となっています。

現利用者のなかには本会との契約以前に抱えた多額の負債による生活困難や、支援員や専門員のアドバイス等を全く聞き入れないケースもあり、現在は弁護士と連携しながら支援を行うケースも発生しています。今後は平成26年度より実施する生活困窮者に対する諸事業との関連も想定されます。また、一昨年度より実績により委託金が決定されることとなったため、これまでの事業運営の抜本的な見直しを図り、本事業を社協職員全員で実施していく体制にシフト中です。また、判断力の低下により成年後見制度での支援が必要な方も見受けられることから、自主事業として法人後見事業にも取り組んでいます。相談業務は社協の中心的な事業のひとつとして、誰もが相談をしやすい体制づくりをめざし総合相談窓口として地域生活支援センター「ふらっとホーム」を拠点として実施しています。

## ②障害者相談支援事業

(単位：人)

年間相談受理(対応)状況		来所	電話等	家庭訪問	施設等訪問
市内	対象者数	61	80	40	31
//	延べ対応件数	193	541	121	93
市外	対象者数	0	0	—	1
//	延べ対応件数	0	0	—	1

## ③精神保健デイケア事業

開所日数	49日
登録者数	21人
実利用者数	21人
延べ利用者数	454人
平均参加者数	9.26人

※ 障害者サービス利用計画 46件 障害児サービス利用計画30件

平成24年度より、無償貸与された民家(深川郵便局横)にて地域活動支援センターⅡ型(新規事業)を開設し、障害者(児)相談事業、精神デイケア事業、引きこもり訪問支援等を実施しました。障害者の地域生活を支援するために、専門の相談員を配置し各種相談に総合的に対応し、個々の障害者の幅広いニーズと様々な社会資源を結び付け調整を図り、障害者の相談支援に努めています。本事業については、平成26年度10月より現在、建設中の「福祉の里」にて事業展開する予定となっています。

## ★児童福祉の推進

年 度	児童関係の事業(抜粋)							
	俵山幼稚園 (児童数)	児童発達支援事業		チャイルドシート貸出事業(単位：台)				
		利用者数	(のべ利用者数)	三隅	長門	日置	油谷	合計
平成17年度	18	-	-	151	83	-	23	257
平成20年度	21	-	-	31	153	16	38	238
平成23年度	14	-	-	38	226	52	47	363
平成24年度	7	27	1,723	61	198	23	36	318
平成25年度	15	31	2,153	44	208	36	37	325

こどもたちが地域で健やかに育っていけるように各種事業を展開しました。特に本会の特徴ともなっている児童養護施設「俵山湯の家」の運営や、俵山幼稚園の運営を継続して実施しました。俵山幼稚園については当初10名で出発しましたが、年度途中から5名の入園により大幅増となりました。

次に平成23年度まで市が直営していたみのり保育園併設の長門市デイケアセンター「のぞみ園」の指定管理を受託し、2年目となりました。療育を必要とする園児(いわゆる気になる子)を対象に、引き続き「児童発達支援事業」として基本的な日常動作の指導や集団生活への適応訓練を実施しました。

チャイルドシート貸出事業については、貸出しが集中するゴールデンウィーク・盆・正月の帰省時に不足しないよう保有数を確保しました。

## 俵山湯の家(児童養護施設)平成25年度 入所状況

(単位：人)

初日(在籍数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	41	41	40	39	39	39	39	39
	12月	1月	2月	3月	入所児童数		退所児童数	
39	38	38	38	0		3		

(平成25年4月1日現在)

学年別児童数	乳・幼児	小1~3	小4~6	中学校	高校	その他	うち県外	計
男	1	1	4	8	5	0	2	19
女	0	0	2	7	12	1	0	22
計	1	1	6	15	17	1	2	41

(その他事業)平成25年度

	(子育て短期支援事業)	(グループ・ケア事業)	(一時保護)
のべ利用数	41名	※実利用6名×2ヶ所	延20日(実利用3名)

(資金収支)

(単位：千円)

	収入	支出	差 額	当期末資金残高	人件費積立金	修繕積立金	備品等購入積立金	施設整備積立金
平成24年度	198,519	195,792	2,727	22,973	6,305	19,554	14,670	12,320
平成25年度	201,262	203,009	▲1,747	21,226	7,305	21,554	14,670	13,320



措置児童については、概ね定員の95%以上を維持し安定的に推移し経営面においても、順調に運営することができました。しかし、あいかわらず中・高校生の割合が高くアンバランスで、事業費面での出費がかさむ傾向にあります。今後も各児相と連携し適正配置の要望をしながら改善に努めます。

子育て短期支援事業は例年通りの利用があり、グループ・ケア事業は新たに男子用を開設し2か所の運営となりました。里親支援専門相談員を配置し、新規サービスの拡充を図りました。それに伴いパート・非常勤職員を増員したことで、管理運営費面での負担が増加しつつあります。

課題としては、懸案の中学校統廃合の問題と、施設の小規模化があります。小規模化については、職員の増員を図る必要がありますが、業務の複雑化による「過負担」「低賃金」等の問題があり、思うように人材の確保が出来ず、今後サービスの維持に努力する必要があります。実態を検証しながら、より良い施設運営に向け、最善策を模索していきます。

## ★決算総括

### 社会福祉協議会

貸借対照表内訳表を湯の家と社協を区分けして作成しました。

本年度の活動の収支を表す事業活動収支差額は11,653千円のプラスとなりました。主要因として介護保険等の事業収益43,967千円（本報告書4～7ページに記載）から、介護保険事業所を安定して運営していくための資金（施設整備、車両更新、人件費増額分）として積み立てた介護保険設備施設整備積立金12,580千円と法人運営経費不足分として繰り入れた21,170千円の差額10,217千円に雑収入等で、昨年度に引き続き概ね良好な経営状態であると言えます。

しかし、障害者の包括的支援を目的に平成26年度中に施設整備運営する地域活動支援センター（※通称 福祉の里構想）について、より良い支援体制を構築するための資金確保や、俵山・通地区における地域密着型介護事業や小規模通所介護事業、さらには本会介護事業のアキレス腱である入所施設の整備実現等を考慮すると資金準備は不十分です。また、香典返し等の善意の寄付金も若干持ち直しがみられたものの、地域の経済情勢等を考慮すると予断は許されず、今後はこれまでも増して計画的かつ慎重な財政運営を行うことが求められています。

